

医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会のIF記載要領2013に準拠して作成

アレルギー性疾患治療剤

日本薬局方 フェキソフェナジン塩酸塩錠

フェキソフェナジン塩酸塩錠30mg「ダイト」
フェキソフェナジン塩酸塩錠60mg「ダイト」

FEXOFENADINE HYDROCHLORIDE Tab.

剤形	フィルムコーティング錠
製剤の規制区分	該当しない
規格・含量	フェキソフェナジン塩酸塩錠 30mg「ダイト」： 1錠中に日本薬局方フェキソフェナジン塩酸塩 30mg を含有する。 フェキソフェナジン塩酸塩錠 60mg「ダイト」： 1錠中に日本薬局方フェキソフェナジン塩酸塩 60mg を含有する。
一般名	和名：フェキソフェナジン塩酸塩（JAN） 洋名：Fexofenadine Hydrochloride（JAN）
製造販売承認年月日 薬価基準収載・発売年月日	製造販売承認年月日：2013年2月15日 薬価基準収載年月日：2013年6月21日 発売年月日：2013年6月21日
開発・製造販売（輸入）・ 提携・販売会社名	発売元：科研製薬株式会社 製造販売元：ダイト株式会社
医薬情報担当者の連絡先	
問合せ窓口	科研製薬株式会社 医薬品情報サービス室 TEL：0120-519-874 受付時間：9:00～17:00（土、日、祝日、その他当社の休業日を除く） 医療関係者向けホームページ： https://www.kaken.co.jp/

本IFは2021年10月改訂の添付文書の記載に基づき作成した。

最新の添付文書情報は、医薬品医療機器総合機構ホームページ <https://www.pmda.go.jp/> にてご確認ください。

IF 利用の手引きの概要 —日本病院薬剤師会—

1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書（以下、添付文書と略す）がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和 63 年に日本病院薬剤師会（以下、日病薬と略す）学術第 2 小委員会が「医薬品インタビューフォーム」（以下、IF と略す）の位置付け並びに IF 記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成 10 年 9 月に日病薬学術第 3 小委員会において IF 記載要領の改訂が行われた。

更に 10 年が経過した現在、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成 20 年 9 月に日病薬医薬情報委員会において IF 記載要領 2008 が策定された。

IF 記載要領 2008 では、IF を紙媒体の冊子として提供する方式から、PDF 等の電磁的データとして提供すること（e-IF）が原則となった。この変更にあわせて、添付文書において「効能・効果の追加」、「警告・禁忌・重要な基本的注意の改訂」などの改訂があった場合に、改訂の根拠データを追加した最新版の e-IF が提供されることとなった。

最新版の e-IF は、医薬品医療機器総合機構ホームページ (<https://www.pmda.go.jp/>) から一括して入手可能となっている。日本病院薬剤師会では、e-IF を掲載する医薬品医療機器総合機構のホームページが公的サイトであることに配慮して、薬価基準収載に合わせて e-IF の情報を検討する組織を設置して、個々の IF が添付文書を補完する適正使用情報として適切か審査・検討することとした。

2008 年より年 4 回のインタビューフォーム検討会を開催した中で指摘してきた事項を再評価し、製薬企業にとっても、医師・薬剤師等にとっても、効率の良い情報源とすることを考えた。そこで今般、IF 記載要領の一部改訂を行い、IF 記載要領 2013 として公表する運びとなった。

2. IF とは

IF は「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等は IF の記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供された IF は、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

[IF の様式]

- ①規格は A4 版、横書きとし、原則として 9 ポイント以上の字体（図表は除く）で記載し、一色刷りとする。ただし、添付文書で赤枠・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。
- ②IF 記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。
- ③表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「IF 利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2 頁にまとめる。

[IF の作成]

- ①IF は原則として製剤の投与経路別（内用剤、注射剤、外用剤）に作成される。
- ②IF に記載する項目及び配列は日病薬が策定した IF 記載要領に準拠する。
- ③添付文書の内容を補完すると IF の主旨に沿って必要な情報が記載される。
- ④製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。
- ⑤「医薬品インタビューフォーム記載要領 2013」（以下、「IF 記載要領 2013」と略す）により作成された IF は、

電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体（PDF）から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

[IF の発行]

- ① 「IF 記載要領 2013」は、平成 25 年 10 月以降に承認された新医薬品から適用となる。
- ② 上記以外の医薬品については、「IF 記載要領 2013」による作成・提供は強制されるものではない。
- ③ 使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果（臨床再評価）が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合には IF が改訂される。

3. IF の利用にあたって

「IF 記載要領 2013」においては、PDF ファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則である。

電子媒体の IF については、医薬品医療機器総合機構ホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、IF の原点を踏まえ、医療現場に不足している情報や IF 作成時に記載し難い情報等については製薬企業の MR 等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、IF の利用性を高める必要がある。また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、IF が改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、IF の使用にあたっては、最新の添付文書を医薬品医療機器情報提供ホームページで確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

4. 利用に際しての留意点

IF を薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。IF は日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。

また製薬企業は、IF があくまでも添付文書を補完する情報資材であり、インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

(2013 年 4 月改訂)

目 次

I. 概要に関する項目	1	9. 製剤中の有効成分の確認試験法	8
1. 開発の経緯	1	10. 製剤中の有効成分の定量法	8
2. 製品の治療学的・製剤学的特性	1	11. 力価	8
II. 名称に関する項目	2	12. 混入する可能性のある夾雑物	8
1. 販売名	2	13. 治療上注意が必要な容器に関する情報	8
(1) 和名	2	14. その他	8
(2) 洋名	2	V. 治療に関する項目	9
(3) 名称の由来	2	1. 効能又は効果	9
2. 一般名	2	2. 用法及び用量	9
(1) 和名	2	3. 臨床成績	9
(2) 洋名	2	(1) 臨床データパッケージ	9
(3) ステム	2	(2) 臨床効果	9
3. 構造式又は示性式	2	(3) 臨床薬理試験：忍容性試験	9
4. 分子式及び分子量	2	(4) 探索的試験：用量反応探索試験	9
5. 化学名（命名法）	2	(5) 検証的試験	9
6. 慣用名、別名、略号、記号番号	3	(6) 治療的使用	9
7. CAS登録番号	3	VI. 薬効薬理に関する項目	10
III. 有効成分に関する項目	4	1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群	10
1. 物理化学的性質	4	2. 薬理作用	10
(1) 外観・性状	4	(1) 作用部位・作用機序	10
(2) 溶解性	4	(2) 薬効を裏付ける試験成績	10
(3) 吸湿性	4	(3) 作用発現時間・持続時間	10
(4) 融点（分解点）、沸点、凝固点	4	VII. 薬物動態に関する項目	11
(5) 酸塩基解離定数	4	1. 血中濃度の推移・測定法	11
(6) 分配係数	4	(1) 治療上有効な血中濃度	11
(7) その他の主な示性値	4	(2) 最高血中濃度到達時間	11
2. 有効成分の各種条件下における安定性	4	(3) 臨床試験で確認された血中濃度	11
3. 有効成分の確認試験法	4	(4) 中毒域	12
4. 有効成分の定量法	4	(5) 食事・併用薬の影響	12
IV. 製剤に関する項目	5	(6) 母集団（ポピュレーション）解析により 判明した薬物体内動態変動要因	12
1. 剤形	5	2. 薬物速度論的パラメータ	12
(1) 剤形の区別、規格及び性状	5	(1) コンパートメントモデル	12
(2) 製剤の物性	5	(2) 吸収速度定数	12
(3) 識別コード	5	(3) バイオアベイラビリティ	12
(4) pH、浸透圧比、粘度、比重、無菌の旨 及び安定な pH 域等	5	(4) 消失速度定数	12
2. 製剤の組成	5	(5) クリアランス	12
(1) 有効成分（活性成分）の含量	5	(6) 分布容積	12
(2) 添加物	5	(7) 血漿蛋白結合率	12
(3) その他	5	3. 吸収	12
3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意	6	4. 分布	12
4. 製剤の各種条件下における安定性	6	(1) 血液－脳関門通過性	12
5. 調製法及び溶解後の安定性	6	(2) 血液－胎盤関門通過性	12
6. 他剤との配合変化（物理化学的変化）	6	(3) 乳汁への移行性	13
7. 溶出性	6	(4) 髄液への移行性	13
8. 生物学的試験法	8	(5) その他の組織への移行性	13

5. 代謝	13	2. 毒性試験	18
(1) 代謝部位及び代謝経路	13	(1) 単回投与毒性試験	18
(2) 代謝に関与する酵素 (CYP450 等) の分 子種	13	(2) 反復投与毒性試験	18
(3) 初回通過効果の有無及びその割合	13	(3) 生殖発生毒性試験	18
(4) 代謝物の活性の有無及び比率	13	(4) その他の特殊毒性	18
(5) 活性代謝物の速度論的パラメータ	13	X. 管理的事項に関する項目	19
6. 排泄	13	1. 規制区分	19
(1) 排泄部位及び経路	13	2. 有効期間又は使用期限	19
(2) 排泄率	13	3. 貯法・保存条件	19
(3) 排泄速度	13	4. 薬剤取扱い上の注意点	19
7. トランスポーターに関する情報	14	(1) 薬局での取り扱いについて	19
8. 透析等による除去率	14	(2) 薬剤交付時の取扱いについて (患者等に 留意すべき必須事項等)	19
VIII. 安全性 (使用上の注意等) に関する項目	15	(3) 調剤時の留意点について	19
1. 警告内容とその理由	15	5. 承認条件等	19
2. 禁忌内容とその理由 (原則禁忌を含む)	15	6. 包装	19
3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその 理由	15	7. 容器の材質	19
4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその 理由	15	8. 同一成分・同効薬	20
5. 慎重投与内容とその理由	15	9. 国際誕生年月日	20
6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法	15	10. 製造販売承認年月日及び承認番号	20
7. 相互作用	15	11. 薬価基準収載年月日	20
(1) 併用禁忌とその理由	15	12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等 の年月日及びその内容	20
(2) 併用注意とその理由	15	13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその 内容	20
8. 副作用	16	14. 再審査期間	20
(1) 副作用の概要	16	15. 投薬期間制限医薬品に関する情報	20
(2) 重大な副作用と初期症状	16	16. 各種コード	20
(3) その他の副作用	16	17. 保険給付上の注意	20
(4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異 常一覧	16	XI. 文献	21
(5) 基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有 無等背景別の副作用発現頻度	16	1. 引用文献	21
(6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法	16	2. その他の参考文献	21
9. 高齢者への投与	16	XII. 参考資料	22
10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与	17	1. 主な外国での発売状況	22
11. 小児等への投与	17	2. 海外における臨床支援情報	22
12. 臨床検査結果に及ぼす影響	17	XIII. 備考	23
13. 過量投与	17	1. その他の関連資料	23
14. 適用上の注意	17	(1) GS1 コード	23
15. その他の注意	17		
16. その他	17		
IX. 非臨床試験に関する項目	18		
1. 薬理試験	18		
(1) 薬効薬理試験	18		
(2) 副次的薬理試験	18		
(3) 安全性薬理試験	18		
(4) その他の薬理試験	18		

I. 概要に関する項目

1. 開発の経緯

フェキソフェナジン塩酸塩は第二世代のヒスタミンH₁受容体拮抗薬に分類され、本邦では2000年11月に上市され、広く臨床で使用されている。また、2002年4月には「皮膚疾患（湿疹・皮膚炎、皮膚そう痒症、アトピー性皮膚炎）に伴うそう痒」の効能・効果が追加され、さらに2006年10月には小児に対する用法・用量が追加され、現在に至っている。

フェキソフェナジン塩酸塩錠30mg「ダイト」及びフェキソフェナジン塩酸塩錠60mg「ダイト」は、フェキソフェナジン塩酸塩を主成分とする後発医薬品としてダイト株式会社が開発を企画し、薬食発第0331015号（平成17年3月31日）に基づき、規格及び試験方法を設定、加速試験、生物学的同等性試験を実施し、2013年2月に承認を取得、2013年6月に発売に至った。なお、フェキソフェナジン塩酸塩錠30mg・60mg「ダイト」は後発医薬品として、ダイト株式会社とMeiji Seikaファルマ株式会社の2社で共同開発を実施し、共同開発グループとして実施したデータを共有し、承認を得た。

2. 製品の治療学的・製剤学的特性

該当しない

II. 名称に関する項目

1. 販売名

(1) 和 名

フェキソフェナジン塩酸塩錠 30mg 「ダイト」、
フェキソフェナジン塩酸塩錠 60mg 「ダイト」

(2) 洋 名

Fexofenadine Hydrochloride Tablets 30mg 「Daito」、
Fexofenadine Hydrochloride Tablets 60mg 「Daito」

(3) 名称の由来

「有効成分名」 + 「剤形」 + 「規格」 + 「屋号」 より命名。

2. 一般名

(1) 和 名

フェキソフェナジン塩酸塩 (JAN)

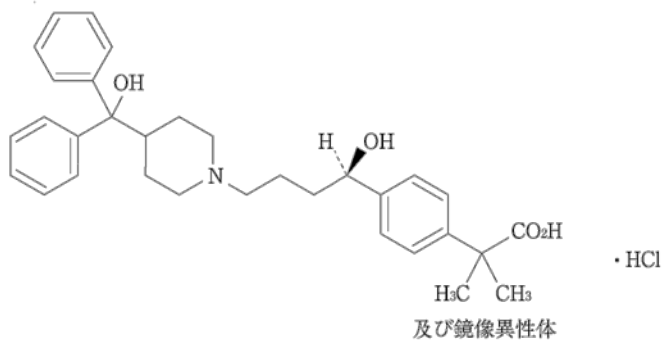
(2) 洋 名

Fexofenadine Hydrochloride (JAN)

(3) ステム

不明

3. 構造式又は示性式



4. 分子式及び分子量

分子式：C₃₂H₃₉NO₄ · HCl

分子量：538.12

5. 化学名 (命名法)

2-(4-((1*RS*)-1-Hydroxy-4-[4-(hydroxydiphenylmethyl) piperidin-1-yl] butyl) phenyl)-2-methylpropanoic acid monohydrochloride (IUPAC)

6. 慣用名、別名、略号、記号番号

特になし

7. CAS 登録番号

153439-40-8 (Fexofenadine Hydrochloride)

III. 有効成分に関する項目

1. 物理化学的性質

(1) 外観・性状

白色の結晶性の粉末である。
本品には結晶多形が認められる。

(2) 溶解性

溶 媒	1g を溶かすのに要する溶媒量	日本薬局方の 溶解度表記
メタノール	1mL 未満	極めて溶けやすい
エタノール (99.5)	10mL 以上 30mL 未満	やや溶けやすい
水	100mL 以上 1,000mL 未満	溶けにくい

(3) 吸湿性

該当資料なし

(4) 融点（分解点）、沸点、凝固点

該当資料なし

(5) 酸塩基解離定数

該当資料なし

(6) 分配係数

該当資料なし

(7) その他の主な示性値

旋光性：本品のメタノール溶液（3→100）は旋光性を示さない。

2. 有効成分の各種条件下における安定性

該当資料なし

3. 有効成分の確認試験法

日本薬局方「フェキソフェナジン塩酸塩」の確認試験法による。


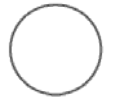
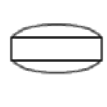

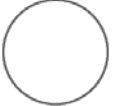
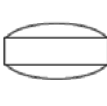
4. 有効成分の定量法

日本薬局方「フェキソフェナジン塩酸塩」の定量法による。

IV. 製剤に関する項目

1. 剤形

(1) 剤形の区別、規格及び性状

製品名	性状	外形			サイズ・重量
		表面	裏面	側面	
フェキソフェナジン塩酸塩錠 30mg「ダイト」	ごくうすいだいだい色のフィルムコーティング錠				直径：6.6mm 厚さ：3.6mm 質量：103.7mg
フェキソフェナジン塩酸塩錠 60mg「ダイト」	うすいだいだい色のフィルムコーティング錠				直径：8.1mm 厚さ：4.6mm 質量：206mg

(2) 製剤の物性

該当資料なし

(3) 識別コード

フェキソフェナジン塩酸塩錠 30mg「ダイト」：DK517（錠剤表面）

フェキソフェナジン塩酸塩錠 60mg「ダイト」：DK518（錠剤表面）

(4) pH、浸透圧比、粘度、比重、無菌の旨及び安定な pH 域等

該当しない

2. 製剤の組成

(1) 有効成分（活性成分）の含量

フェキソフェナジン塩酸塩錠 30mg「ダイト」：1錠中に日本薬局方フェキソフェナジン塩酸塩 30mg を含有する。

フェキソフェナジン塩酸塩錠 60mg「ダイト」：1錠中に日本薬局方フェキソフェナジン塩酸塩 60mg を含有する。

(2) 添加物

[両製剤共通]

結晶セルロース、部分アルファー化デンプン、クロスカルメロースナトリウム、ポビドン、軽質無水ケイ酸、ステアリン酸マグネシウム、ヒプロメロース、マクロゴール 6000、酸化チタン、三二酸化鉄、黄色三二酸化鉄

(3) その他

特になし

3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意

該当しない

4. 製剤の各種条件下における安定性

○加速試験

最終包装製品を用いた加速試験の結果、フェキソフェナジン塩酸塩錠 30mg「ダイト」及びフェキソフェナジン塩酸塩錠 60mg「ダイト」は通常の市場流通下において3年間安定であることが推定された¹⁾。

製品名	保存条件	包装形態	保存期間	結果
フェキソフェナジン塩酸塩錠 30mg「ダイト」	40±1℃ 75±5%RH	PTP包装	6ヵ月	適合*
フェキソフェナジン塩酸塩錠 60mg「ダイト」		PTP包装 バラ包装		

※性状、確認試験、製剤均一性（含量均一性試験）、溶出性、定量

○長期保存試験

最終包装製品を用いた長期安定性試験の結果、フェキソフェナジン塩酸塩錠 30mg「ダイト」及びフェキソフェナジン塩酸塩錠 60mg「ダイト」は通常の市場流通下において3年間安定であることが確認された¹⁾。

製品名	保存条件	包装形態	保存期間	結果
フェキソフェナジン塩酸塩錠 30mg「ダイト」	25±2℃ 60±5%RH	PTP包装	36ヵ月	適合*
フェキソフェナジン塩酸塩錠 60mg「ダイト」				

※性状、確認試験、製剤均一性（含量均一性試験）、溶出性、定量

5. 調製法及び溶解後の安定性

該当しない

6. 他剤との配合変化（物理化学的变化）

該当資料なし

7. 溶出性

(1) フェキソフェナジン塩酸塩錠 60mg「ダイト」

[日本薬局方に基づく試験]

試験液に水 900mL を用い、日局一般試験法 溶出試験法のパドル法 (50rpm) により試験を行うとき、本剤は日本薬局方医薬品各条に定められたフェキソフェナジン塩酸塩錠の溶出規格に適合することが確認されている (30 分間の溶出率が 80%以上)²⁾。

[後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドラインに基づく試験]

①試験法：日本薬局方一般試験法溶出試験法 パドル法

②試験条件

試験液量：900mL

測定方法：液体クロマトグラフィー

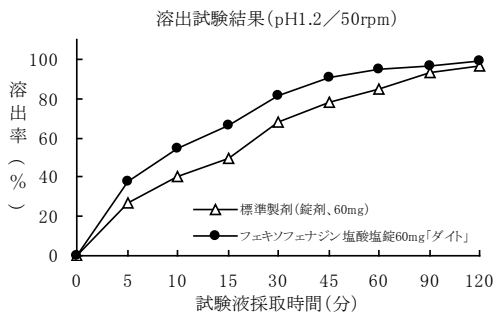
各種条件：

試験液	サンプリング時間 (分)	回転数
pH1.2	5, 10, 15, 30, 45, 60, 90, 120	50rpm
pH4.0	5, 10, 15, 30, 45, 60, 90, 120, 180	
pH6.8	5, 10, 15, 30	
水	5, 10, 15, 30	100rpm
pH4.0	5, 10, 15, 30, 45, 60, 90, 120, 180	
試験液温	37.0±0.5°C	
ベッセル数	各々12ベッセル	

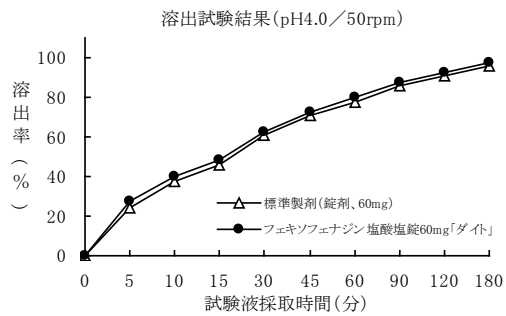
③試験結果：フェキソフェナジン塩酸塩錠 60mg「ダイト」の溶出挙動は、いずれの試験液においても「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」の基準の範囲内であり、試験製剤と標準製剤の溶出挙動は類似していると判断された²⁾。

[フェキソフェナジン塩酸塩錠 60mg「ダイト」と標準製剤の各種条件下における溶出挙動]

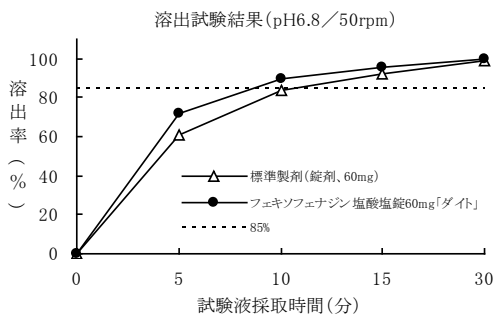
pH1.2, 50rpm



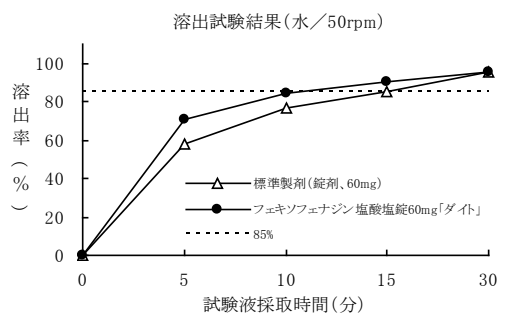
pH4.0, 50rpm



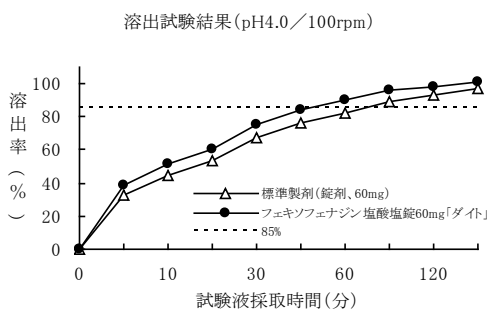
pH6.8, 50rpm



水, 50rpm



pH4.0, 100rpm



(2) フェキソフェナジン塩酸塩錠 30mg 「ダイト」

[日本薬局方に基づく試験]

試験液に水 900mL を用い、日局一般試験法 溶出試験法のパドル法 (50rpm) により試験を行うとき、本剤は日本薬局方医薬品各条に定められたフェキソフェナジン塩酸塩錠の溶出規格に適合することが確認されている (30 分間の溶出率が 80%以上)²⁾。

[溶出挙動における同等性 (「含量が異なる経口固形製剤の生物学的同等性試験ガイドライン」(平成 18 年 11 月 24 日付 薬食審査発第 1124004 号 別紙 2) に基づく試験)]

①試験法：日本薬局方一般試験法溶出試験法 パドル法

②試験条件

試験液量：900mL 測定方法：液体クロマトグラフィー

各種条件：

試験液	サンプリング時間 (分)	回転数
水	5, 10, 15, 30	50rpm
試験液温	37.0±0.5℃	
ベッセル数	12 ベッセル	

③試験結果：フェキソフェナジン塩酸塩錠 30mg 「ダイト」は、「含量が異なる経口固形製剤の生物学的同等性試験ガイドライン」に基づき、フェキソフェナジン塩酸塩錠 60mg 「ダイト」を標準製剤としたとき、上記試験条件における溶出挙動が等しく、生物学的に同等とみなされた²⁾。

8. 生物学的試験法

該当しない

9. 製剤中の有効成分の確認試験法

日本薬局方「フェキソフェナジン塩酸塩錠」の確認試験法による。

10. 製剤中の有効成分の定量法

日本薬局方「フェキソフェナジン塩酸塩錠」の定量法による。

11. 力価

該当しない

12. 混入する可能性のある夾雑物

該当資料なし。

なお、日本薬局方医薬品各条「フェキソフェナジン塩酸塩」の純度試験の項において、個々の類縁物質の量は 0.1%以下に規定されている。

13. 治療上注意が必要な容器に関する情報

該当資料なし

14. その他

特になし

V. 治療に関する項目

1. 効能又は効果

アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、皮膚疾患（湿疹・皮膚炎、皮膚そう痒症、アトピー性皮膚炎）に伴うそう痒

2. 用法及び用量

通常、成人にはフェキソフェナジン塩酸塩として1回60mgを1日2回経口投与する。

通常、7歳以上12歳未満の小児にはフェキソフェナジン塩酸塩として1回30mgを1日2回、

12歳以上の小児にはフェキソフェナジン塩酸塩として1回60mgを1日2回経口投与する。

なお、症状により適宜増減する。

3. 臨床成績

(1) 臨床データパッケージ

該当しない

(2) 臨床効果

該当資料なし

(3) 臨床薬理試験：忍容性試験

該当資料なし

(4) 探索的試験：用量反応探索試験

該当資料なし

(5) 検証的試験

該当資料なし

(6) 治療的使用

該当資料なし

VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群

エバスチン、セチリジン塩酸塩、レボセチリジン塩酸塩、ケトチフェンフマル酸塩、アゼラスチン塩酸塩、オキサトミド、メキタジン、エメダスチンフマル酸塩、エピナスチン塩酸塩、オロパタジン塩酸塩、ベポタスチンベシル酸塩、ロラタジン 等

2. 薬理作用

(1) 作用部位・作用機序

フェキソフェナジン塩酸塩は第二世代の抗ヒスタミン薬の一つである。抗原抗体反応に伴って起こる肥満細胞からのヒスタミンなどのケミカルメディエーターの遊離を抑制すると共に、ヒスタミンの H₁ 作用に拮抗することにより、アレルギー症状を緩和する³⁾。

(2) 薬効を裏付ける試験成績

該当資料なし

(3) 作用発現時間・持続時間

該当資料なし

VII. 薬物動態に関する項目

1. 血中濃度の推移・測定法

(1) 治療上有効な血中濃度

該当資料なし

(2) 最高血中濃度到達時間

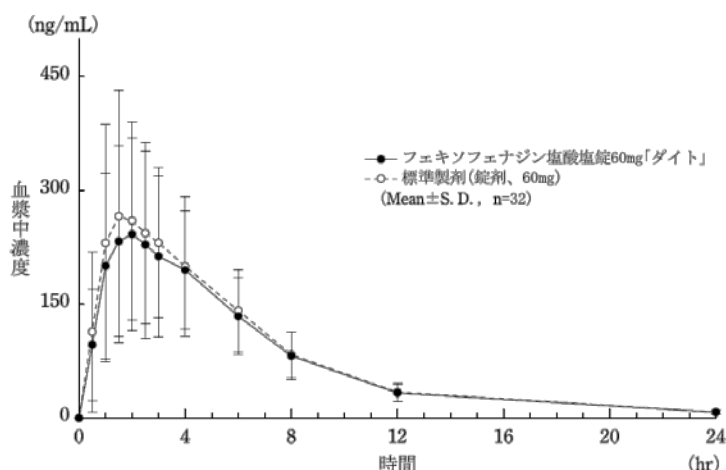
「(3) 臨床試験で確認された血中濃度」の項参照

(3) 臨床試験で確認された血中濃度

1) フェキソフェナジン塩酸塩錠 60mg「ダイト」

(「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」に準拠し実施)

健康成人男子にフェキソフェナジン塩酸塩錠 60mg「ダイト」と標準製剤のそれぞれ1錠 (フェキソフェナジン塩酸塩として 60mg) を、絶食時単回経口投与して血漿中フェキソフェナジン濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ (Cmax、AUC) について 90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、 $\log(0.80) \sim \log(1.25)$ の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された (クロスオーバー法)⁴⁾。



薬物動態パラメータ (平均±標準偏差、n=32)

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	Cmax (ng/mL)	AUC ₀₋₂₄ (ng・hr/mL)	Tmax (hr)	T _{1/2} (hr)
フェキソフェナジン塩酸塩錠 60mg「ダイト」	285±127	1779±658	2.2±1.2	4.9±0.6
標準製剤 (錠剤、60mg)	314±166	1884±696	2.0±1.2	4.9±0.5

血漿中濃度並びに Cmax、AUC 等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

2) フェキソフェナジン塩酸塩錠 30mg「ダイト」

該当資料なし (本剤は溶出挙動により同等性を評価した (「IV-7. 溶出性」の項参照)。)

(4) 中毒域

該当資料なし

(5) 食事・併用薬の影響

「VIII-7. 相互作用」の項参照

(6) 母集団（ポピュレーション）解析により判明した薬物体内動態変動要因

該当資料なし

2. 薬物速度論的パラメータ

(1) コンパートメントモデル

該当資料なし

(2) 吸収速度定数

該当資料なし

(3) バイオアベイラビリティ

該当資料なし

(4) 消失速度定数

$K_{el} : 0.144 \pm 0.017 \text{ (hr}^{-1}\text{)}$ (試験製剤 (60mg 錠) 単回投与時、平均±標準偏差、n=32)⁴⁾

(5) クリアランス

該当資料なし

(6) 分布容積

該当資料なし

(7) 血漿蛋白結合率

フェキソフェナジンの血漿たん白結合率は 13~7,359ng/mL の濃度範囲で 60~82% (69.4±5.9%) であったとの報告がある³⁾。

3. 吸 収

該当資料なし

4. 分 布

(1) 血液-脳関門通過性

該当資料なし

(2) 血液-胎盤関門通過性

該当資料なし

(3) 乳汁への移行性

該当資料なし

<参考>

動物実験（ラット）で乳汁中へ移行することが報告されている（「VIII-10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照）。

(4) 髄液への移行性

該当資料なし

(5) その他の組織への移行性

該当資料なし

5. 代謝

(1) 代謝部位及び代謝経路

該当資料なし

(2) 代謝に関与する酵素（CYP450等）の分子種

該当資料なし

(3) 初回通過効果の有無及びその割合

該当資料なし

(4) 代謝物の活性の有無及び比率

該当資料なし

(5) 活性代謝物の速度論的パラメータ

該当資料なし

6. 排泄

(1) 排泄部位及び経路

該当資料なし

(2) 排泄率

該当資料なし

<参考>

健康成人男子にフェキソフェナジン塩酸塩 60mg 含有製剤（カプセル剤）を単回経口投与したとき、投与後 48 時間までの尿中フェキソフェナジンの平均累積回収率は 11.1%であったとの報告がある³⁾。

(3) 排泄速度

該当資料なし

7. トランスポーターに関する情報

該当資料なし

8. 透析等による除去率

本剤は血液透析によって除去できない（「VIII-13. 過量投与」の項参照）。

VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

1. 警告内容とその理由

該当しない

2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）

【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

5. 慎重投与内容とその理由

該当しない

6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法

重要な基本的注意

- (1) 本剤を季節性の患者に投与する場合は、好発季節を考慮して、その直前から投与を開始し、好発季節終了時まで続けることが望ましい。
- (2) 本剤の使用により効果が認められない場合には、漫然と長期にわたり投与しないように注意すること。

7. 相互作用

(1) 併用禁忌とその理由

該当しない

(2) 併用注意とその理由

併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
制酸剤（水酸化アルミニウム・水酸化マグネシウム含有製剤）	本剤の作用を減弱させることがあるので、同時に服用させないなど慎重に投与すること。	水酸化アルミニウム・水酸化マグネシウムが本剤を一時的に吸着することにより吸収量が減少することによるものと推定される。
エリスロマイシン	本剤の血漿中濃度を上昇させるとの報告がある。	P 糖蛋白の阻害による本剤のクリアランスの低下及び吸収率の増加に起因するものと推定される。

8. 副作用

(1) 副作用の概要

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(2) 重大な副作用と初期症状

重大な副作用（頻度不明）

- 1) ショック、アナフィラキシー：ショック、アナフィラキシーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、呼吸困難、血圧低下、意識消失、血管浮腫、胸痛、潮紅等の過敏症状があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 2) 肝機能障害、黄疸：AST（GOT）、ALT（GPT）、 γ -GTP、Al-P、LDHの上昇等の肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い異常が認められた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 3) 無顆粒球症、白血球減少、好中球減少：無顆粒球症、白血球減少、好中球減少があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(3) その他の副作用

その他の副作用

分類	頻度	頻度不明
精神神経系		頭痛、眠気、疲労、倦怠感、めまい、不眠、神経過敏、悪夢、睡眠障害、しびれ感
消化器		嘔気、嘔吐、口渇、腹痛、下痢、消化不良、便秘
過敏症 ^{注1)}		そう痒、蕁麻疹、潮紅、発疹、血管浮腫
肝臓 ^{注2)}		AST（GOT）上昇、ALT（GPT）上昇
腎臓・泌尿器		頻尿、排尿困難
循環器		動悸、血圧上昇
その他		呼吸困難、味覚異常、浮腫、胸痛、月経異常

注1) このような症状が現れた場合には、投与を中止すること。

注2) このような異常が現れた場合には、減量、休薬等の適切な処置を行うこと。

(4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧

該当資料なし

(5) 基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度

該当資料なし

(6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法

「2. 禁忌内容とその理由」、「(2) 重大な副作用と初期症状」及び「(3) その他の副作用」の項参照

9. 高齢者への投与

高齢者への投与

高齢者では腎機能が低下していることが多く、腎臓からも排泄される本剤では血中濃度が上昇する場合がありますので、異常が認められた場合には適切な処置を行うこと。

10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

妊婦、産婦、授乳婦等への投与

(1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。

[妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。]

(2) 授乳中の婦人には本剤投与中は授乳を避けさせること。

[動物実験(ラット)で乳汁中へ移行することが報告されている。]

11. 小児等への投与

小児等への投与

低出生体重児、新生児、乳児、幼児に対する安全性は確立していない(使用経験が少ない)。

12. 臨床検査結果に及ぼす影響

臨床検査結果に及ぼす影響

本剤は、アレルゲン皮内反応を抑制するため、アレルゲン皮内反応検査を実施する3~5日前から本剤の投与を中止すること。

13. 過量投与

過量投与

過量投与に関する報告は限られており、外国での過量服用症例報告には用量が不明な症例が多いが、最も高用量を服用した2例(1800~3600mg)では、症状はないかあるいはめまい、眠気及び口渇が報告されている。過量投与例においては、吸収されずに残っている薬物を通常の方法で除去すること及び、その後の処置は対症的、補助的療法を検討すること。なお、本剤は血液透析によって除去できない。

14. 適用上の注意

適用上の注意

薬剤交付時

PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。(PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。)

15. その他の注意

該当しない

16. その他

特になし

IX. 非臨床試験に関する項目

1. 薬理試験

(1) 薬効薬理試験

「VI. 薬効薬理に関する項目」の項参照

(2) 副次的薬理試験

該当資料なし

(3) 安全性薬理試験

該当資料なし

(4) その他の薬理試験

該当資料なし

2. 毒性試験

(1) 単回投与毒性試験

該当資料なし

(2) 反復投与毒性試験

該当資料なし

(3) 生殖発生毒性試験

該当資料なし

(4) その他の特殊毒性

該当資料なし

X. 管理的事項に関する項目

1. 規制区分

製 剤：該当しない
有効成分：該当しない

2. 有効期間又は使用期限

使用期限：3年（安定性試験結果に基づく）

3. 貯法・保存条件

室温保存

4. 薬剤取扱い上の注意点

（1）薬局での取り扱いについて

該当しない

（2）薬剤交付時の取り扱いについて（患者等に留意すべき必須事項等）

「VIII-14. 適用上の注意」の項参照

患者向医薬品ガイド：なし
くすりのしおり：あり

（3）調剤時の留意点について

該当資料なし

5. 承認条件等

なし

6. 包 装

[フェキソフェナジン塩酸塩錠 30mg 「ダイト」]

P T P：100錠（10錠×10）

[フェキソフェナジン塩酸塩錠 60mg 「ダイト」]

P T P：100錠（10錠×10）、500錠（10錠×50）

7. 容器の材質

P T P：ポリ塩化ビニル、アルミニウム

ピロー：ポリエチレン・ポリプロピレンラミネートフィルム

個装箱：紙

8. 同一成分・同効薬

同一成分薬：アレグラ錠 30mg、同錠 60mg、同 OD 錠 60mg 等

同 効 薬：エバスチン、セチリジン塩酸塩、レボセチリジン塩酸塩、ケトチフェンフマル酸塩、アゼラスチン塩酸塩、オキサトミド、メキタジン、エメダスチンフマル酸塩、エピナスチン塩酸塩、オロパタジン塩酸塩、ベポタスチンベシル酸塩、ロラタジン 等

9. 国際誕生年月日

1996年3月11日

10. 製造販売承認年月日及び承認番号

製品名	製造販売承認年月日	承認番号
フェキソフェナジン 塩酸塩錠 30mg 「ダイト」	2013年2月15日	22500AMX00145000
フェキソフェナジン 塩酸塩錠 60mg 「ダイト」		22500AMX00146000

11. 薬価基準収載年月日

2013年6月21日

12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容

該当しない

13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容

該当しない

14. 再審査期間

該当しない

15. 投薬期間制限医薬品に関する情報

本剤は、投薬期間に関する制限は定められていない。

16. 各種コード

製品名	HOT (9 桁) 番号	厚生労働省薬価基準 収載医薬品コード	レセプト電算 コード
フェキソフェナジン 塩酸塩錠 30mg 「ダイト」	122600301	4490023F2187	622260001
フェキソフェナジン 塩酸塩錠 60mg 「ダイト」	122601001	4490023F1180	622260101

17. 保険給付上の注意

本剤は保険診療上の後発医薬品である。

XI. 文 献

1. 引用文献

- 1) ダイト株式会社 社内資料（安定性試験）
- 2) ダイト株式会社 社内資料（溶出試験）
- 3) 第十七改正日本薬局方解説書（廣川書店）
- 4) ダイト株式会社 社内資料（生物学的同等性試験）

2. その他の参考文献

特になし

XII. 参考資料

1. 主な外国での発売状況

該当しない

2. 海外における臨床支援情報

該当しない

XIII. 備 考

1. その他の関連資料

(1) GS1コード

製品名	包装	GS1コード	
		販売包装単位	調剤包装単位
フェキソフェナジン 塩酸塩錠 30mg「ダイト」	100錠 PTP	(01)14987042 134012	(01)04987042 134510
フェキソフェナジン 塩酸塩錠 60mg「ダイト」	100錠 PTP 500錠 PTP	(01)14987042 134111 (01)14987042 134166	(01)04987042 134619 (01)04987042 134619

